科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅱ
講師名	看護教員	実務経験の有無	有
単位数（時間）	2 単位（30 時間）	開講年次	2 年次　第 2 学期
授業概要 ＊講師からのメッセージ			

目的：地域で生活しながら療養する人々とその家族を総合的に理解し、在宅看護を展開するための基礎を学ぶ

目標：1. 在宅療養者と家族を総合的に理解するための情報収集の視点が理解できる

2. 在宅療養者と家族の生活上の問題をアセスメントすることができる

3. 在宅療養者と家族の状況に応じた看護が理解できる

回	授　業　内　容
1	在宅看護に必要な基本的態度とマナー 訪問看護の基本、訪問時のマナー
2	在宅看護における看護の展開のポイント、介入時期別の特徴
3 【グループワーク】	在宅看護における基本的情報収集項目と情報の整理（事例：ALS）
4 【グループワーク】	在宅療養者の身体的・精神的・社会的側面の理解（事例：ALS） 在宅療養者を支える家族および社会資源の活用（事例：ALS）
5 【グループワーク】	在宅療養者と家族の生活上の問題のアセスメント①（事例：ALS）
6 【グループワーク】	在宅療養者と家族の生活上の問題のアセスメント②（事例：ALS）
7 【グループワーク】	生活上の問題に対する看護介入①（事例：ALS）
8 【グループワーク】	生活上の問題に対する看護介入②（事例：ALS）
9 【演習】	７・８回目の内容をもとに、訪問場面のロールプレイ（事例：ALS）
10	退院支援・退院調整から在宅療養へ移行する看護（事例：脳卒中）
11、12	在宅支援が必要な在宅療養者の看護（事例：パーキンソン病）
13	終末期がんの在宅療養者の看護（事例：終末期がん）
14	認知症のある在宅療養者の看護（事例：アルツハイマー病）
15	独居の在宅療養者の看護
16	１時間（45 分）：終了試験
授業方法	講義、グループワーク、演習
評価方法	演習への参加状況、演習課題の提出（20%）、筆記試験（80%）
テキスト	医学書院：系統看護学講座　在宅看護論
備考	